

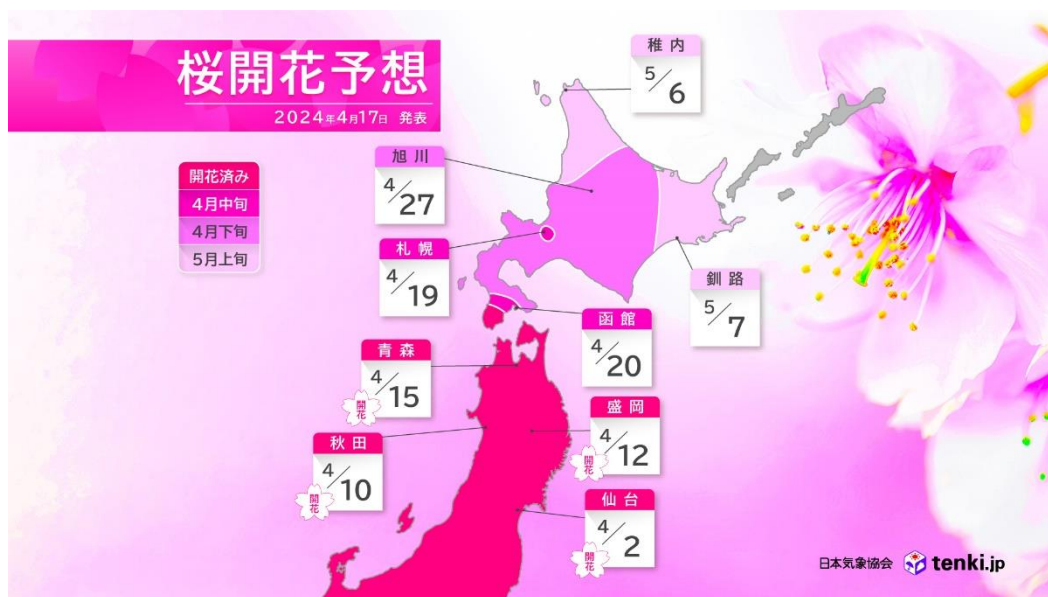
【報道関係各位】

2024年4月17日
一般財団法人 日本気象協会

2024年桜開花満開予想（第9回） 桜開花前線は北海道に上陸 札幌は19日開花か

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、全国にある観測地点での桜の開花・満開予想（第9回）を、2024年4月17日（水）に発表します。

開花予想前線図



開花・満開予想日（主な地点）

地点	開花			満開		
	予想日と平年比	平年開花日	昨年開花日	予想日と平年比	平年満開日	昨年満開日
釧路市	5/7 かなり早い	5/16	5/1	5/9 かなり早い	5/19	5/4
札幌市	4/19 かなり早い	5/1	4/15	4/22 かなり早い	5/6	4/21
青森市	4/15 かなり早い	4/22	4/7	4/18 かなり早い	4/26	4/11
仙台市	4/2 早い	4/8	3/26	4/9 早い	4/13	3/31
秋田市	4/10 かなり早い	4/17	4/4	4/14 かなり早い	4/22	4/7
千代田区	3/29 遅い	3/24	3/14	4/4 遅い	3/31	3/22
長野市	4/8 早い	4/11	3/28	4/13 早い	4/16	4/3
新潟市	4/6 平年並	4/8	3/27	4/11 平年並	4/13	3/31
金沢市	4/1 平年並	4/3	3/23	4/8 平年並	4/8	3/30
名古屋市	3/28 遅い	3/24	3/17	4/7 遅い	4/2	3/27
大阪市	3/30 遅い	3/27	3/19	4/6 平年並	4/4	3/27
広島市	3/25 平年並	3/25	3/19	4/5 平年並	4/3	3/28
高知市	3/23 平年並	3/22	3/17	3/31 平年並	3/30	3/24
福岡市	3/27 遅い	3/22	3/18	4/2 平年並	3/31	3/26
鹿児島市	3/29 遅い	3/26	3/24	4/12 かなり遅い	4/5	4/5

2024年4月17日発表

※釧路市はエゾヤマザクラの予想

日本気象協会 tenki.jp



開花・満開の傾向

前回 4 月 10 日の発表以降、12 日には盛岡市、14 日に弘前市と八戸市、15 日には青森市でも開花となりました。さらに 16 日には北海道松前郡松前町でも開花し、桜開花前線はついに北海道に上陸しました^{※1}。

今年これまでの開花を振り返ると、北の地域ほど平年より早い傾向にある一方で、関東以南の地域では平年より遅くなる傾向となっています。これを裏付けるデータの 1 つとして、東京の開花から青森の開花までの日数は、17 日間と過去最も短くなっています^{※2}。

この先、ゴールデンウィークころにかけて気温は全国的に平年より高く推移する見込みです。そのため北海道では、開花・満開ともに、平年より早いところが多く、かなり早くなるところもあるでしょう。

19 日には札幌市、20 日には函館市で開花し、22 日には札幌市で満開となる見込みです。23 日には帯広市、27 日には室蘭市や旭川市でも開花し、ゴールデンウィークは北海道の各地で見ごろとなるところが多いでしょう。

【※1】弘前市と八戸市、松前町は気象台の標本木ではなく、自治体・公園などの協力機関から観測データを得ている日本気象協会の独自地点です。

【※2】東京と青森の開花日の差の平均(1956 年～2023 年)は 29 日、これまで最も短かったのは 1963 年と 1998 年の 20 日。

桜の花芽の様子



北海道松前郡松前町の標本木(4 月 16 日撮影)
4 月 16 日(火)に開花し、平年より 11 日も早い開花となりました。
※写真は松前町より提供

全 83 地点^{※3}の桜の開花・満開予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじゃーぴー)』桜の開花・満開予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【※3】3 月以降は全国で 83 地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる 30 地点となります。また、満開に関しては全国で 76 地点の予想を発表します。



【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1 月、2 月中は開花予想日のみを発表し、3 月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第 1 回 1 月 31 日(水)	第 2 回 2 月 28 日(水)	第 3 回 3 月 6 日(水)	第 4 回 3 月 13 日(水)
第 5 回 3 月 19 日(火)	第 6 回 3 月 27 日(水)	第 7 回 4 月 3 日(水)	第 8 回 4 月 10 日(水)
第 9 回 4 月 17 日(水)	第 10 回 4 月 24 日(水)		

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で 5~6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で 80% 以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1 月、2 月中は 49 地点、3 月以降は全国で 83 地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる 30 地点となります。また、満開に関しては全国で 76 地点の予想を発表します。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は 2007 年から桜の開花予想を実施しており、今年で 18 年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。